

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	基礎科学			開講期間	4月～5月		
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 基礎分野 物理学			出版社	医学書院		
授業のねらい	看護実践に必要な物理・科学の基礎を学び、医療・看護に応用できる能力を養うことが求められる。しかし、物理学や科学に苦手意識を持つ学生も多い。看護に必要なことを中心に学び活用できる様考え学べるようにする。						
到達目標	物理学の基礎を学び、科学的思考と看護をつなげる事ができる。						
評価基準	筆記試験・レポート・出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	1.「基礎科学」と医療 2.物理的・科学的思考について 3.「基礎科学」と看護の必要性	講義
2	運動と力 1.物体の運動 2.力と加速度 3.力のつりあい 4.力のモーメント 5.仕事とエネルギー	講義
3	圧力 1.点滴静脈内注射 針にかかる圧力 2.血圧計計測の原理と注意点 3.吸引器の条件としくみ	講義
4	4.電動式低圧持続吸引機 5.人工心臓、人工肺、人工透析器	
5	熱 1.人体の熱産生 2.身体の冷却 3.アルコール清拭 4.衣服や寝具による保温	講義
6	電気 1.医療電気機器 電気メス、心電図、電子体温計 2.電気機器の安全性と留意点 1.濃度とは 2.濃度計算方法	講義
7	光と放射線 1.明るさの測定 2.光、色、レンズ、内視鏡 3.パルスオキシメーター 4.レーザーメス 5.X線検査 6.放射性同位元素検査音と振動 1.聴診器 2.音波と超音波 3.超音波ドップラー法	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	哲学			開講期間	4月～6月		
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	なし（使用する資料を授業中に配布）			出版社	医学書院		
授業のねらい	倫理および生命倫理学全体を俯瞰的に概括したのち、各論を個別に検証する。医療に関わる倫理的諸問題は、医療従事者や生命科学研究者だけでなく、すべての者に否応なしに関係してきて解決を迫る。関連情報の正確な理解に基づき、様々な考え方や立場を理解しつつ、自ら主体的に考える姿勢を養成する。それぞれの問題の構造を分析し、現状を理解する。						
到達目標	哲学、生命倫理の現状や問題を理解し、問題解決への道筋を考察する。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	哲学・倫理とは何か 生命倫理学とは何か	講義
2	医療倫理の基本四原則 医療従事者の社会的責任	講義
3	生命倫理学、誕生の背景 自立尊重とSOL/QOL	講義
4	胎児の命を考える リプロダクティブライツと新優性思想	講義
5	生殖補助医療を考える 不妊症と女性の社会進出／妊娠・出産にまつわる社会の負担	講義
6	脳死と臓器移植を考える 日本の脳死議論／臓器提供の意思表示	講義
7	安楽死・尊厳死・治療停止を考える 死に方を選ぶこと／リビングウィルとDNAR	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	論理学			開講期間	4月～6月		
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	実践ロジカルシンキング			出版社	産業能率大学出版部		
授業のねらい	<p>ロジカルシンキングとは、一貫して筋道が通っている考え方、あるいは説明の仕方のことをいう。これを、日本語訳で論理的思考と置き換えられることが多い。看護を考え実践していく上でこの思考力は必要であり、修得していきたい。対象との接点において筋道の通った話や説明ができるようにその基本を習得する。</p>						
到達目標	正しい思考の形式・法則を学ぶ。物事を論理的に考え、表現する力を養う。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	なぜロジカルシンキングでなければならないのか	講義
2	理論の展開 1.演繹法 2.帰納法 3.演繹法と帰納法の運用	講義
3	因果関係の把握 1.事象間の関係と問題解決 2.因果関係の成立条件	講義
4	論理の構造化 1.グルーピング 2.MECE 3.フレームワーク 4.ディメンジョン	講義
5	推論と思考法 1.推論とその価値 2.ファクトベース 3.フェルミ推定 4.思考のパラダイム 5.ゼロベース思考	講義
6	問題解決 1.問題解決プロセスと論理思考 2.イシューの把握 3.WhyツリーとHowツリー 4.一義的に決定する	講義
7	コミュニケーション 1.コミュニケーション・プロセス 2.ロジカルなメッセージ 3.理論ピラミッド 4.ロジカルリーディング&リスニング	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	統計学			開講期間	6月～7月		
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 基礎分野 統計学			出版社	医学書院		
授業のねらい	統計学の基礎的考え方、データの看護・保健領域において必要と考えられるデータの考え方、データの取り扱いや処理、基本的な統計値や統計手法、考え方などについて学ぶ。保健統計の基礎を学ぶことで衛生統計を理解する。						
到達目標	データを統計学的視点から分析し、統計学資料を理解できる。 看護の科学的根拠の裏付けとして統計学を活かすことができる。						
評価基準	筆記試験・レポート・出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	1.統計学とは何か 2.記述統計と推測統計	講義
2	1.看護における統計の必要性	
3	統計の基礎 1.統計データの種類	
4	2.統計データのまとめ方 3.母集団 4.標本	
5	5.検定の種類 6.データの取り扱いについてわかる 7.基本的なデータ集計、計算などの方法の実際がわかる	
6	1.主な統計資料の種類	
7	2.人口静態・動態統計の実際 3.国民健康・栄養調査など	
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	情報科学			開講期間	6月～7月		
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	Word Excelの基本マスター			出版社	実教出版		
授業のねらい	情報化社会への対応として科学的な視点での情報収集とその問題提起、研究的な思考能力の育成とともにコンピュータの基本的操作を学ぶ。看護学、情報科学に加えコンピュータの知識・技術を統合して、看護における情報科学としての基礎的知識を学ぶ。						
到達目標	医療と情報科学の関係を理解し、看護を科学的に追及する姿勢を養う。						
評価基準	課題レポート、出席・演習参加状況						

回	講義内容	教授方法等
1	医療と情報科学 1.情報科学の基礎 2.情報技術とコンピュータ 3.医療と情報システム 4.病院情報システム 5.地域看護と情報システム 6.看護と情報に関する倫理	講義
2	コンピュータ技術 1.パソコンの基本操作	講義・演習
3	2.ワープロソフト ・入力・編集操作 ・ページ設定、印刷、保存	
4	・書式、変換操作 ・表	
5	3.表計算ソフト ・基本操作 ・編集、計算式 ・関数	
6	・絶対参照と相対参照 ・グラフ	
7	4.プレゼンテーション 5.統計ソフト、情報検索	
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	社会学				開講期間	6月～7月	
領域	科学的思考の基盤	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書					出版社		
授業のねらい	現代の健康・医療においては、生物医学等の自然科学のみならず、社会科学の視点から捉えることが重要であり、社会学の視座から人間の行為、社会集団、現代社会の成り立ちと諸問題等を捉える方法を身につける。						
到達目標	社会学の基礎概念と理論に関する知識を身につけ、現代社会における健康・病気・医療について深く理解する。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	社会学の誕生、社会学の基礎概念 社会的行為と社会関係、地位と役割ほか	講義
2	保健医療と社会学 健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方	
3	社会調査の理論と技法	
4	健康・病気の社会格差 「働き方」「働かせ方」と健康・病気	
5	健康・病気行動と病経験	
6	患者－医療者関係とコミュニケーション 性・ジェンダー・家族と保健医療	
7	地域社会と保健医療 保健医療制度とその現代的変化 ケアと医療	
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	心理学			開講期間	6月～7月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統学看護学講座 心理学			出版社	医学書院		
授業のねらい	心理学についての様々な領域の内容を広くとりあげる。この講義では、特に心理学の知見を理解する上で重要な、認知、学習、感情、人格、発達、社会といった領域を中心に扱っていく。心理学の概論となる授業である。						
到達目標	ひとのこころや行動について科学的に理解し、こころの成長や発達の過程と段階、発達課題を理解する。						
評価基準	毎回の講義の課題提出（40％）・筆記による終講試験（60％）						

回	講義内容	教授方法等
1	心理学とは何か 感覚・知覚の心理学①感覚	講義
2	感覚・知覚の心 記憶の心理学	講義
3	学習の心理学と行動分析 感情と動機の心理学	講義
4	性格と知能の心理学 発達心理学①	講義
5	発達心理学② 社会・集団の心理学①	講義
6	社会・集団の心理学② 社会・集団の心理学③	講義
7	健康の心理学 臨床心理学・カウンセリング	講義
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	教育学			開講期間	6月～7月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 基礎分野 教育学			出版社	医学書院		
授業のねらい	教育学への関心をもち、看護における教育的役割を果たすための基礎を学ぶ。 1. 教育学の基本的な概念を学び、教育・学習・成長・他者との関係といった、人間の教育行為に対する理解を深める。 2. 教育の意義及び主体的に学ぶことの意味がわかる。 3. 看護実践に活用できる基礎能力がわかる。						
到達目標	教育の意義と歴史を知り、教育の思想、看護教育を通じて人を理解する。						
評価基準	終講試験 70% 授業中の小レポート 30%						

回	講義内容	教授方法等
1	教育の意義・概念 1. 教育とは 2. 教育の対象 3. 学校教育制度	講義
2	教育問題 1. ゆとり問題と学力問題 2. 社会問題化する「学校病理」 3. 政治問題化	講義
3	教育の構成 1. 教授 2. 訓育 3. 養護 4. 発達	講義
4	教育の展望 1. 学校と家庭の連携・役割 2. メディア教育 3. 専門性 4. 社会環境・政策などとの関連	講義
5	学ぶこと・教えること 1. 教育過程・方法の理論 2. 出会いとしての学びと教育方法 3. 教師にとって大切なこと 4. 学びの評価	講義
6	今後の課題 1. 専門教育 2. ジェンダーとセクシュアリティ 3. インクルーシブ教育 4. 生涯教育 5. シティズンシップ教育	講義
7	教育方法・評価 教育方法と教育評価	講義
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

<b>科目名</b>	文化人類学			<b>開講期間</b>	4～6月		
<b>領域</b>	人間と生活・社会の理解	<b>対象学年</b>	1	<b>単位数</b>	1	<b>時間数</b>	15
<b>使用教科書</b>	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学			<b>出版社</b>	医学書院		
<b>授業のねらい</b>	文化の普遍性と多様性を詳細かつ具体的に明らかにすることによって「人間とは何か」を考えることで、文化・環境が人間に与える影響を学び、人間の存在やものの考え方を理解する。 そのうえで看護において対象理解や対応について学び実際に活かせるようにする。						
<b>到達目標</b>	人間形成の基本的理解を深め、環境と人間の存在やモノの考え方を理解する。						
<b>評価基準</b>	筆記試験 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	「人間と文化」「文化人類学と質的研究」	講義
2	「個人・家族・コミュニティ」「人生の通過儀礼」	講義
3	「宗教と世界観」	講義
4	ジェンダー	講義
5	多文化共生	講義
6	「健康・病気・医療」	講義
7	「人間と死」	講義
8	これまでの授業の振り返り、および試験レポート内容提示	

## 2025年 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	人間関係論			開講期間	7月～11月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 基礎分野 人間関係論			出版社	医学書院		
授業のねらい	<p>看護をはじめとする保健医療福祉の援助は、対象や専門職チームとの密な人間関係が基盤となる。その為、その知識とスキルを習得することが重要といえる。これは、生活には不可欠でありごく日常的な現象である。しかし、根拠を踏まえてアプローチできるようになることが必要であり、基礎知識を基にどのように関係構築することが必要かを理解できるように教授していく。</p> <p>まずは、学内での生活に活用し、クラスメートとの関係が良好に築けるようにする。また、実習においては、対象との信頼関係がスムーズに築けるような力の育成を目指したい。</p>						
到達目標	心理学の概念や理論、自己と他者について理解を深める。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1	人間関係の基礎 1.人間関係のとらえ方 2.基本的意義 3.人間関係のプロセス 4.対話関係の展開	講義
2	社会的相互作用と社会的役割 1.人間関係における社会的相互作用 2.社会的相互作用とその諸相 3.規定要因 4.社会的役割 5.役割関係における葛藤とその解決 6.援助的役割のガイドライン	講義
3	人間関係におけるコミュニケーション 1.コミュニケーション論の復習 2.コミュニケーション障害 3.援助的コミュニケーション	講義
	研究と応用 1.心理臨床に関する理論と実践 2.看護ケアへの応用	講義
4	人間関係向上スキル 1.体験学習の基本姿勢と源流 2.看護教育での課題	講義
5		
6	看護における人間関係 1.保健医療チームにおける人間関係 2.闘病生活を支える人間関係 3.終末期の患者と家族を支える人間関係 4.家族の人間関係と看護師のかかわり	講義
7		
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	コミュニケーショントレーニング			開講期間	11月～1月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	コミュニケーショントレーニングトレーニングブック			出版社	ルネサンス		
授業の狙い	良好な人間関係を築き、集団の中での適切なコミュニケーションを図るため、メタ認知能力を高め、体験から学びながら個々の特徴としてコミュニケーション技術を磨いていく。						
到達目標	集団の中で自己および他者の意見を尊重しながら合意形成を行うことができる。						
評価基準	課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	体験からの学び方「体験学習の循環過程」を理解する ダイエル・キム「成功の循環モデル」 自己知識の発達段階	講義
2	自分のコミュニケーションの仕方・特徴 効果的なコミュニケーションの5つの要素	グループワーク 講義
3	第一印象とジョハリの窓 コンテンツとプロセス	グループワーク 講義
4	自分自身を表現する	個人ワーク グループワーク
5	コミュニケーション・プロセス	ペアワーク 講義
6	グループプロセスの諸要素	グループワーク 講義
7	価値観と人間関係 マズローの欲求階層	グループワーク 講義
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	健康づくりと運動			開講期間	4月～11月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書				出版社			
授業の狙い	健康づくりに必要な運動に関わる基礎科学（生理学・機能解剖学・バイオメカニクス）を学び、運動プログラムの実際を体験する。						
到達目標	健康づくりにつながる運動と身体の変化への理解を深め、生活者への運動による健康づくりへの認識を高める。						
評価基準	筆記試験：70%/レポート及び提出物：30%						

回	講義内容	教授方法等
1	健康づくり,運動生理学	講義
2	機能解剖とバイオメカニクス,栄養摂取と運動	講義
3	健康づくりと運動プログラム（1） トレーニングの原理原則,トレーニング作成のポイント	講義・演習
4	健康づくりと運動プログラム（2） ウォームアップ,クールダウン,有酸素運動,無酸素運動について	講義・演習
5	運動指導の心理学	講義
6	健康づくりの運動の実際（1） ウォームアップとクールダウン,ストレッチング	講義・演習
7	健康づくりの運動の実際（2） ウォーキングとジョギング,エアロビクス,水泳・水中運動,レジスタンスエクササイズ	講義・演習
8	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	未来デザインプログラム			開講期間	5月～12月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	7つの習慣Jテキスト			出版社	FCEIディケーション		
	夢のスケッチブック				三幸学園		
授業の狙い	社会人としてあるべき人格を高め、自身および他者へのリーダーシップを醸成し主体性を発揮する人材を育成する。						
到達目標	「自立」と「相互依存」のためにはどんな考え方や行動習慣が必要なのかを理解し、実践できる。						
評価基準	テスト：50％／レポート及び提出物：50％						

回	講義内容	教授方法等
1	第1の習慣① ・刺激と反応 ・言霊	講義&ワーク
2	第1の習慣② ・影響の輪 ・選んだ道と選ばなかった道	講義&ワーク
3	第2の習慣 ・「SDGs」とは ・人生のビジョン～10年後の自分～	講義&ワーク
4	第3の習慣 ・一番大切なことを優先する ・時間管理マトリクス	講義&ワーク
5	第4の習慣 ・WIN-WINを考える ・豊かさマインド	講義&ワーク
6	第5の習慣 ・理解してから理解される 第6の習慣 ・相乗効果を発揮する	講義&ワーク
7	第7の習慣 ・自分を磨く（刃を研ぐ） ・感謝の心	講義&ワーク
8	まとめ（7つの習慣振り返り） 2年生に向けて～1年後の自分へ～	講義&ワーク

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	基礎英語			開講期間	11月～12月		
領域	人間と生活・社会の理解	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	クリティーンのやさしい看護英会話			出版社	医学書院		
授業のねらい	看護師は患者やその家族だけでなく、他の職種とも、多様な形でコミュニケーションを図ることが必要であり、グローバル化に伴い多国籍の人々と英語でコミュニケーションを行なう必要も出てくることが想定される。国籍問わず、すべての人に公平かつ正しく理解したうえで治療を受けていただくための説明と同意が求められてくることが想定される。グローバルヘルスの課題解決に向けて、国際感覚や医療に関する基本的英語力を養う。						
到達目標	国際感覚や医療に関する英語力を養う。						
評価基準	筆記試験 レポート 出席状況						

回	講義内容	教授方法等
1		
2	・身体各部の名称がわかる	講義
3	・循環器系・呼吸器系・血液疾患の名称がわかる ・症状とその把握のための会話についてわかる	
4	・消化器系・泌尿器系・内分泌疾患の名称がわかる ・症状とその把握のための会話についてわかる	
5	・神経系・筋骨格系・皮膚・感覚器系・生殖系疾患の名称がわかる ・症状とその把握のための会話についてわかる	
6		
7	事例を通して症状把握の会話をする	
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	構造・機能学 I				講義期間	4月～5月	
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	人体の構造と機能【1】解剖生理学					医学書院	
授業の狙い	骨格筋の構成や機能を系統的に理解し、日常生活行動にどのように関連しているのか理解できる。						
到達目標	1.骨格筋の構成や機能を系統的に理解できる。 2.日常生活行動にどのように関連しているのか理解できる。						
評価基準	筆記試験						
回	講義内容				教授方法等		
1	人体の構造の区分・忍耐の部位と期間・方向と位置を示す用語				講義		
2	分化した細胞が作る組織・機能から見た人体				講義		
3	骨格とは 骨の連携				講義		
4	骨格筋の構造				講義		
5	体幹の骨格と筋 1.脊柱 胸郭				講義		
6	2.背部 胸部の筋 3.腹部の筋				講義		
7	上肢の骨格と筋①				講義		
8	上肢の骨格と筋②				講義		
9	日常生活行動演習①				視覚教材 演習		
10	下肢の骨格と筋				講義		
11	日常生活行動演習②				視覚教材 演習		
12	日常生活行動演習②				講義		
13	頸部の骨格と筋				講義		
14	日常生活行動演習④				視覚教材 演習		
15	まとめ・終講試験						

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	構造・機能学Ⅱ			開講期間	5月～6月		
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野			出版社	医学書院		
	人体の構造と機能【1】解剖生理学				医学書院		
授業の狙い	呼吸器・血液・循環器・腎・泌尿器の構造機能を系統的に学習する。						
到達目標	呼吸器・血液・循環器・腎・泌尿器の構造と機能を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	呼吸器の構造	講義
2	呼吸① 内呼吸と外呼吸 呼吸器と呼吸運動 呼吸器量	講義
3	呼吸② ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流 呼吸運動の調節 呼吸器系の病態生理	講義
4	血液 血液の組織と機能 赤血球 白血球	講義
5	血液 血小板 血漿タンパク質赤血球沈降血液凝固 血液型	講義
6	循環器系の構成 心臓の構造	講義
7	心臓の拍出機能	講義
8	末梢循環系の構造	講義
9	血液の循環の調整① 血圧 血液の循環 血圧・血流量の調節	講義
10	血液の循環の調整② 微小循環 循環器系の病態生理 リンパとリンパ管	講義
11	腎臓の構造と機能 糸球体の構造と機能 尿細管の構造と機能	講義
12	傍糸球体装置 クリアランスと糸球体濾過量 腎臓から分泌される生理活性物質	講義
13	排尿路	講義
14	体液の調整	講義
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	構造・機能学Ⅲ			開講期間	6月～7月		
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野			出版社	医学書院		
	人体の構造と機能【1】解剖生理学				医学書院		
授業の狙い	消化器・内分泌・生殖器の構造機能を系統的に学習する。						
到達目標	消化器・内分泌・生殖器の構造と機能が理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	口の構造と機能 咽頭・食道の構造と機能	講義
2	腹部消化管の構造と機能①	講義
3	腹部消化管の構造と機能②	講義
4	腹部消化管の構造と機能③	講義
5	膵臓・肝臓・胆のうの構造と機能 腹膜	講義
6	自律神経による調節 自律神経の機能 自律神経の構造 自律神経の神経伝達物質と受容体	講義
7	内分泌系による調節 内分泌とホルモン 作用機序 視床下部－下垂体	講義
8	甲状腺と副甲状腺 膵臓	講義
9	副腎 性腺 その他の内分泌腺	講義
10	ホルモン分泌の調節 ホルモンによる調節の実際	講義
11	男性生殖器	講義
12	女性生殖器	講義
13	受精と胎児の発生	講義
14	成長と老化	講義
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	構造・機能学Ⅳ				開講期間	7月～9月	
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野				出版社	医学書院	
	人体の構造と機能【1】解剖生理学						
授業の狙い	脳神経・生体防御の構造機能を学習する。						
到達目標	脳神経・生体防御の構造機能を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	神経系の構造と機能	講義
2	脊髄と脳	講義
3	脊髄神経と脳神経	講義
4	脳の高次機能 脳波と睡眠 記憶 本能行動と情動行動	講義
5	脳の高次機能 内臓調節機能 中枢神経系の障害	講義
6	運動機能と下行伝導路 感覚機能と上行伝導路	講義
7	眼の構造と視覚①	講義
8	眼の構造と視覚②	講義
9	耳の構造と聴覚・平衡覚 味覚と嗅覚 痛み（疼痛）	講義
10	皮膚の構造と機能	講義
11	生体の防御機構① 非特異的防御機構 特異的防御機構	講義
12	生体の防御機構② 生体防御の関連臓器	講義
13	代謝と運動	講義
14	体温とその調節	講義
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	構造・機能学 V			開講期間	9月～10月		
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】			出版社	医学書院		
	解剖生理学						
授業の狙い	構造機能学 I～IVまでの内容を、事例を用いて理解を深める。						
到達目標	人体の構造機能を可視化しながら関連付けて理解を深めることができる。						
評価基準	レポート課題						

回	講義内容	教授方法等
1	事例紹介	講義
2	アセスメント（人体の構造と機能）	講義・グループワーク
3	アセスメント（疾病の成り行きと症状）	講義・グループワーク
4	グループ学習発表	発表
5	まとめ 解剖見学オリエンテーション	講義
6	解剖見学	外部へ見学
7	解剖見学	外部へ見学
8	まとめ・レポート提出	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	生化学			開講期間	5月～7月		
領域	人体の構造と機能	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野2 生化学			出版社	医学書院		
授業の狙い	人体の構成成分と代謝、遺伝について理解する。						
到達目標	1. 生体を構成する物質とその代謝を理解できる。 2. 遺伝のしくみを理解することができる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	化学の基礎知識 細胞の構造と機能	講義
2	糖代謝と物質代謝 1. 糖質の役割と種類・性質 2. 糖質の消化吸収 3. 解糖反応とその調節	講義
3	脂質と脂質代謝 1. 脂質の役割と種類・性質 2. 脂質の消化吸収 3. 脂肪酸の分解と生合成	講義
4	蛋白質と蛋白代謝 1. 蛋白質の役割と種類・性質 2. 蛋白質の消化吸収 3. アミノ酸の利用	講義
5	酵素の役割と反応 ビタミンと補酵素	講義
6	核酸と核酸代謝 1. 核酸の合成と分解 2. ヌクレオチドの合成と分解	講義
7	遺伝のしくみについて 1. 蛋白質の合成と遺伝 2. 遺伝のしくみ 3. 遺伝子の異常	講義
8	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	医学概論			開講期間	5～7月		
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度1 医療概論			出版社	医学書院		
授業の狙い	人間の生命とは、病気について臨床医学を中心に、検査・治療・病気の予防について概論を学習する。						
到達目標	1.疾病を回復を促進させる各種治療の原理、リハビリテーションを理解できる。 2.疾病の回復を促進する検査、医療機器について理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	医学とは何か 1.医学とは何か 人間の生命について 病気と医学 2.医学史 病気の原因と身体的変化	講義
2	病気の診断 1.診察 2.臨床検査 基本的検査 3.臨床検査 生体機能検査 画像診断 内視鏡検査	講義
3	治療方法の基本 1.治療学的概論 種類 治療計画 EBN 2.安静療法 運動療法	講義
4	3.薬物療法 4.化学療法 5.栄養・輸液療法	講義
5	6.リハビリテーション療法 1)リハビリテーション概論 2)リハビリテーション評価	講義
6	3)リハビリテーション治療法 4)病期とリハビリテーション	講義
7	7.放射線療法 1)放射線療法とは 2)診断方法 診断防護	講義
8	3)外照者 小線源治療・RI内服療法 新しい放射線技術	講義
9	8.手術療法 1)手術療法と種類 2)麻酔の種類	講義
10	3)手術の実際 内視鏡による手術 臓器移植 ナビゲーション支援手術 血管内治療 植え込み型機器を使用する手術	講義
11	9.救急医療 1)救急医療とは 救急診断	講義
12	2)緊急医療の実際	講義
13	10.緩和医療 1)緩和ケアとは	講義
14	2)緩和ケアの実際	講義
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	疾病治療学 I				開講期間	9月～11月	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【10】運動器				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【7】脳神経					医学書院	
授業の狙い	脳神経、運動器系に疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。						
到達目標	1.脳神経に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。 2.運動器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	脳神経系① 主な症状と病態生理 意識障害 運動機能障害 反射性運動機能障害 嚥下障害	講義
2	脳神経系② 主な疾患の病態生理と主な症状・障害 高次機能障害 感覚機能障害 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア 髄膜炎刺激症状	講義
3	脳神経系③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 脳血管障害（くも膜下出血、脳出血、脳梗塞）	講義
4	脳神経系④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 脳血管障害（脳腫瘍、頭部外傷、水頭症）	講義
5	脳神経系⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 脊髄（脊髄小脳変性症） 末梢神経障害（多発性ニューロパチー・ギランバレー症候群）	講義
6	脳神経系⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 神経・筋疾患（重症筋無力症、筋ジストロフィー、筋萎縮性側索硬化症）	講義
7	脳神経系⑦ 主な疾患の病態生理と検査・治療 脱髄・変性疾患（多発性硬化症、パーキンソン病）	講義
8	脳神経系⑧ 主な疾患の病態生理と検査・治療 脳・神経系感染症（脳炎、髄膜炎） てんかん 認知症	講義
9	運動器疾患① 主な症状と病態生理 疼痛、変形、拘縮、運動麻痺、知覚障害	講義
10	運動器疾患② 診断と検査 関節可動域、徒手筋力テスト、骨密度、造影検査、MRI、X線、シンチグラフィ	講義
11	運動器疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 骨折・脱臼、脊椎・神経の損傷 （椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、脊髄損傷、末梢神経損傷）	講義
12	運動器疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 筋・腱・靭帯などの症状（半月板損傷、靭帯損傷） 先天性疾患（先天性股関節脱臼）	講義
13	運動器疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 炎症性疾患（髄膜炎、変形性関節症、関節リウマチ、痛風）	講義
14	運動器疾患⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 骨腫瘍（骨肉腫、がんの骨転移）	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	疾病治療学Ⅱ				開講期間	6月～10月	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【2】呼吸器				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【3】循環器					医学書院	
授業の狙い	呼吸器・循環器に疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。						
到達目標	1.呼吸器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる 2.循環器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	呼吸器疾患① 主な症状と病態生理 喀血、血痰、咳嗽、胸痛、呼吸困難、チアノーゼ、ばち指	講義
2	呼吸器疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 気管支炎、気管支喘息、肺炎	講義
3	呼吸器疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 気胸、肺結核	講義
4	呼吸器疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 慢性閉塞性肺疾患 呼吸不全	講義
5	呼吸器疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 肺がん、肺腫瘍	講義
6	呼吸器疾患⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 肺血栓塞栓症 胸膜・縦隔疾患	講義
7	循環器疾患① 主な症状と病態生理 胸痛、動悸、呼吸困難、チアノーゼ、ショック	講義
8	循環器疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）	講義
9	循環器疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 不整脈	講義
10	循環器疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 心不全	講義
11	循環器疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 高血圧、肺性心	講義
12	循環器疾患⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 弁膜症 心膜炎	講義
13	循環器疾患⑦ 主な疾患の病態生理と検査・治療 心筋疾患 川崎病 動脈系疾患	講義
14	循環器疾患⑧ 主な疾患の病態生理と検査・治療 動脈系疾患 リンパ系疾患	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	疾病治療学Ⅲ			開講期間	7月～11月		
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【4】血液・造血器系			出版社	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【6】消化器系				医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【7】内分泌・代謝				医学書院		
授業の狙い	消化器系、内分泌・代謝系、血液・リンパ系に疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。						
到達目標	<p>1.血液・リンパ系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。</p> <p>2.消化器系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。</p> <p>3.内分泌・代謝系に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。</p>						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	血液・造血器系① 主な疾患の病態生理と検査・治療 貧血 悪性貧血 鉄欠乏性貧血 再生不良性貧血	講義
2	血液・造血器系② 主な疾患の病態生理と検査・治療 白血病、溶結性貧血	講義
3	血液・造血器系③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫 血小板異常 凝固異常 血友病	講義
4	消化器系疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 食道がん 胃・食道逆流症	講義
5	消化器系疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 胃がん 胃・十二指腸潰瘍	講義
6	消化器系疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 潰瘍性大腸炎 クローン病 イレウス ポリープ	講義
7	消化器系疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 肝炎 肝硬変 肝臓がん	講義
8	消化器系疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 膵炎 胆石	講義
9	消化器系疾患⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 膵臓がん 腹部外傷 急性腹症	講義
10	内分泌代謝疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 クッシング病 褐色細胞腫	講義
11	内分泌代謝疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 下垂体機能亢進症 尿崩症 下垂体腫瘍	講義
12	内分泌代謝疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 糖尿病 脂質代謝異常	講義
13	内分泌代謝疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 バセドウ病 橋本病	講義
14	内分泌代謝疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 メタボリックシンドローム 痛風	講義
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	疾病治療学Ⅳ			開講期間	11月～1月		
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【8】腎・泌尿器			出版社	医学書院		
	系統看護学講座 専門分野 成人看護学【9】女性生殖器				医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論				医学書院		
授業の狙い	腎・泌尿器、女性生殖器並びに、先天性疾患を持つ人のアセスメントに必要な基礎的知識を理解する。						
到達目標	1.腎・泌尿器に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。 2.女性生殖器に疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。 3.先天性疾患を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	腎泌尿器疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 腎炎 糸球体腎炎	講義
2	腎泌尿器疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 ネフローゼ IgA腎症 腎血管性疾患	講義
3	腎泌尿器疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 腎不全 透析療法	講義
4	腎泌尿器疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 間質性腎炎 腎細胞がん	講義
5	腎泌尿器疾患⑤ 主な疾患の病態生理と検査・治療 尿路感染症 尿路結石	講義
6	腎泌尿器疾患⑥ 主な疾患の病態生理と検査・治療 前立腺がん 前立腺肥大	講義
7	腎泌尿器疾患⑦ 主な疾患の病態生理と検査・治療 性機能障害 陰茎腫瘍	講義
8	女性・生殖器疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 子宮内膜症 不妊症 子宮筋腫	講義
9	女性・生殖器疾患② 主な疾患の病態生理と検査・治療 子宮頸がん 子宮体がん 卵巣がん	講義
10	女性・生殖器疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 性行為感染症 乳がん 更年期障害	講義
11	遺伝・先天性疾患① 主な疾患の病態生理と検査・治療 先天性疾患（ダウン症 18トリソミー ターナー症候群）	講義
12	遺伝・先天性疾患② B13主な疾患の病態生理と検査・治療 形成異常（先天性水頭症 もやもや病 無脳症 小頭症 口唇口蓋裂）	講義
13	遺伝・先天性疾患③ 主な疾患の病態生理と検査・治療 代謝異常（ウイルソン病 メンケス病）	講義
14	遺伝・先天性疾患④ 主な疾患の病態生理と検査・治療 新生児（ハイリスク児 新生児仮死 分娩損傷 新生児メレナ 未熟児網膜症）	講義
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	微生物学			開講期間	9月～10月		
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野			出版社	医学書院		
	疾病の成り立ちと回復【4】微生物学						
授業の狙い	病原微生物が人体に及ぼす影響と生体防御機構を学び、感染症の特徴と診断、治療、感染予防について理解する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>健康状態を脅かす微生物の人体におよぼす影響を理解できる。</li> <li>感染症の原因、主要症状、診断、治療の方法を理解する。</li> </ol>						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	微生物学の基礎 1.微生物の性質 2.細菌の特徴・臨床症状・診断・治療	講義
2	3.真菌の特徴・臨床症状・診断・治療 4.原虫の特徴・臨床症状・診断・治療	講義
3	5.ウイルスの特徴・臨床症状・診断・治療 HIV感染症 新型インフルエンザ COVID-19 ウイルス性肝炎 麻疹 風疹 水痘	講義
4	感染とその防御 1.感染の成立から発症・治癒まで 2.各種感染の機構（細菌・真菌・原虫・ウイルス）	講義
5	感染に関する生体防御 1.各種免疫のしくみ（自然・獲得・粘膜） 2.感染の兆候と症状 3.感染予防	講義
6	感染源・感染経路から見た感染症 1.経口感染 2.経気道感染 3.接触感染 4.経皮感染 5.母児感染	講義
7	感染症の現状と対策	講義
8	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	病態生理学				開講期間	10月～12月	
領域	疾病の成り立ちと回復の促進	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復【1】 病態学				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復【2】 病態生理学					医学書院	
授業の狙い	病気の原因と人体にもたらす変化を理解し、適切な看護を行うための知識を学習する。						
到達目標	1. 疾病の原因や発病理、形態と機能及び代謝変化の原理を理解できる。						
評価基準	筆記試験						

回	講義内容	教授方法等
1	疾病の成り立ちと回復 組織を構成する細胞の構造・機能とその生涯 壊死とアポトーシス 萎縮と定型性	講義 教科書：病理学
2	疾病の成り立ちと回復 炎症 炎症の分類と治療 組織の再生	講義 教科書：病理学
3	細胞組織の修復と再生① 免疫（獲得 自然 免疫記憶 能動 受動）各種細胞（T細胞、β細胞、NK細胞 マクロファージ 液性免疫と細胞性免疫）	講義 教科書：病理学
4	細胞組織の修復と再生② 抗体 サイトカイン 免疫不全	講義 教科書：病理学
5	細胞組織の修復と再生③ アレルギー 自己免疫疾患 膠原病 移植と再生医療	講義 教科書：病理学
6	老化と死 フレイルとサルコペニア ロコモティブシンドローム 廃用症候群 老化のメカニズム 死の三徴候 死体現象 脳死と植物状態	講義 教科書：病理学
7	腫瘍 分類（悪性度・組織発生） がんと肉腫 リンパ行性転移 血行性転移 播種 進行度	講義 教科書：病理学
8	皮膚・体温調整のしくみと病態生理 皮膚体温の生体防御 体温調整のしくみ	講義 教科書：病態生理学
9	循環のしくみとその病態生理 浮腫 充血とうっ血 出血と止血 血栓症 虚血と梗塞 低血圧と高血圧	講義 教科書：病態生理学
10	呼吸のしくみと病態生理 呼吸困難と呼吸不全 換気障害 ガスの拡散障害	講義 教科書：病態生理学
11	内分泌・代謝のしくみと病態生理 糖代謝異常 脂質代謝異常	講義 教科書：病態生理学
12	内分泌・代謝のしくみと病態生理 尿酸代謝異常 カルシウム・リンの代謝異常	講義 教科書：病態生理学
13	生殖のしくみと病態生理	講義 教科書：病態生理学
14	脳・神経、筋肉の動きと病態生理 脳腫瘍 頭痛 睡眠障害 意識と認知の障害	講義 教科書：病態生理学
15	まとめ・終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	基礎看護学概論			開講期間	4月～7月		
領域	基礎看護学概論	対象学年	1	単位数	2	時間数	45
使用教科書	基礎看護学概論 基礎看護学①			出版社	医学書院		
	基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②				医学書院		
授業の狙い	看護の変遷、定義を知り、看護の対象である人間について、環境・生活・健康の概念化や看護理論、看護過程の概要を学び、今後の看護実践の基礎とする。						
到達目標	1.看護の歴史の変遷や制度・政策、先人の研究等を知る。2.看護の対象者である人間について、環境・生活・健康の概念を理解する。3.看護理論、看護過程の概要を学び、今後の看護展開の基礎とする。						
評価基準	筆記試験：70% 記録物：30%						

回	講義内容	教授方法等
1	看護の概念 1)看護学を学び始めるにあたって 2)看護技術とは 3)看護の本質	講義・グループワーク
2	4)看護の概念	
3	看護の概念 4)「健康」の概念、5)「環境」の概念、6)「人間」の概念	講義
4		
5	看護の覚書 抄読会	グループワーク・個人レポート
6		
7	看護理論	講義
8	1)ヘンダーソン、オレム、ロイ、ロジャース、トラベルビー、ジョンソン、キューブラロス、フイック等	
9	看護の対象 1)対象のニード、2)対象のライフサイクルと健康、 3)健康障害を持つ人の理解	講義
10	看護の歴史と変遷	講義・グループワーク
11	1)ナイチンゲール 2)20世紀の社会変化と看護の変遷 3)日本の社会と看護 (グループワーク・発表)	
12	看護の役割と機能	講義
13	1)看護ケアについて 2)看護実践とその質の保障 3)看護の役割と機能の拡大 4)看護職者の倫理	
14	看護提供の仕組み	講義
15	1)看護サービスとは 2)チーム医療・多職種連携、継続看護 3)看護サービス管理	
16	看護と社会 1)看護をめぐる制度と背景、2)看護師の職業地位と専門性	講義
17	医療安全と医療の質の保障	講義・グループワーク
18	1)医療安全 2)インシデントレポートの書き方	
19	国際化と看護、災害時における看護	講義
20	看護におけるコミュニケーション	講義
21	患者に有効なコミュニケーションを考える	グループワーク・個人レポート
22	記録・報告の技術、1)看護過程の考え方	講義・演習
23	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	看護過程				開講期間	12月～2月	
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術 I 基礎看護学②				出版社	医学書院	
	NANDA-I 看護診断 定義と分類					医学書院	
	ゴードンの機能的健康パターンに基づく 看護過程と看護診断					ヌーヴェルヒロカワ	
授業の狙い	看護過程の考え方とその実際について学び、今後の看護実践における基盤をつくる。						
到達目標	1.看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義がわかる。 2.事例をもとに看護過程のアセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった各段階の基本的な考え方と実際がわかる。						
評価基準	記録提出状況及び内容：60% 筆記試験：40%						

回	講義内容	教授方法等
1	看護過程とは 看護過程の5つの要素 ①アセスメント ②看護問題の明確化（看護診断） ③計画 ④実施 ⑤評価	講義
2	看護過程を展開する際に基盤となる考え方 1)問題解決過程 2)クリティカルシンキング 3)倫理的配慮と価値判断 4)リフレクション	講義
3	アセスメントとは ゴードンによる機能的健康パターンに基づく枠組みについて 関連図の基礎知識	講義
4	事前学習の進め方・病態関連図について	講義・演習
5	事例を用いて看護過程の展開①（NO.1と患者の全体像をまとめる）	講義・演習
6	アセスメントの実際－事例ワーク（NO.2）	講義・演習
7	アセスメントの実際－事例ワーク（NO.2）	講義・演習
8	アセスメントの実際－事例ワーク（NO.2）	講義・演習
9	看護問題の明確化（看護診断）・優先順位の考え方 看護診断リストの記載方法 目標の設定方法・計画立案について	講義
10	看護問題の明確化（看護診断）の実際-事例ワーク（NO.4）	講義・演習
11	計画立案の実際－事例ワーク（NO.5）	講義・演習
12	グループワーク 情報の共有	演習
13	看護計画発表（NO.3/NO.4/NO.5）	演習
14	援助の実施・評価	演習
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	環境と安全管理				開講期間	4月～6月	
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術Ⅰ ②				出版社	医学書院	
	基礎看護技術Ⅱ ③					医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版					医学書院	
授業の狙い	1.感染予防の基礎知識を理解し、医療安全の観点から療養生活の環境を知り、適切な環境調整の基本を学ぶ。 2.患者が24時間過ごす療養環境を知り、環境を整える意義を理解する。						
到達目標	1.衛生的な手洗いを確実に実践し感染を防止できる。 2.適切に感染防止対策を実践し、病床の環境を調整する技術を養う。 3.患者の安全安楽な環境について考えることができる。						
評価基準	筆記試験：60% 演習参加状況・技術到達度・記録物：40%						

回	講義内容	教授方法等
1	感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション）の基礎知識	講義
2	1.環境の意義 2.病棟・病室の構造と機能 3.病床の構成	講義
3	4.病床整備の目的と原則 5.環境アセスメント	講義
4	「衛生的な手洗い」「スタンダードプリコーション」デモンストレーション・演習	演習
5	環境調整技術：「リネン類の名称・意義・留意点」「ベッド周囲の環境整備」	演示・演習
6		
7	環境整備の実際：「リネンのたたみ方とベッドメイキングの準備」「シーツのしわののばし方」 「三角折りについて」「クローズドベッドの作成」 デモンストレーション・演習	演示・演習
8		
9	クローズドベッドの作成演習 オープンベッド・クローズドベッドの違いについて	演示・演習
10		
11	2人で行うシーツ交換 臥床患者のシーツ交換・デモンストレーション・演習	演示・演習
12		
13	「クローズドベッドの作成・環境整備」演習	演習・技術確認
14		
15	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	活動と休息の援助技術				開講期間	6月～7月	
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ ③				出版社	医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版					医学書院	
授業の狙い	姿勢の基礎知識、ボディメカニクスの原理を理解し、安全で安楽な移動、移送の方法を学ぶ。						
到達目標	1.ボディメカニクスの原理をもとに、安全安楽な移動・移送が実施できる。 2.休息・睡眠の必要性とその援助方法を知ることができる。						
評価基準	筆記試験：70% 演習参加状況・技術到達度・記録物:30%						

回	講義内容	教授方法等
1	<b>&lt;活動・休息&gt;</b> 1.活動休息の意義 2.睡眠・休息の基礎知識 3.睡眠障害の要因とその援助 4.体位の種類と体圧 5.体位変換の目的・方法	講義
2	6.良肢位の定義と意義 7. ボディメカニクスの意義・原則 8.安楽物品 9.安全・安楽な移動方法 10.移乗・移送の方法	講義
3	<b>&lt;機能障害時の援助&gt;</b> 1.麻痺 2.ADL自立困難 3.廃用症候群 4.活動性低下 5.不眠	講義
4	<b>&lt;体位と移動の援助&gt;</b> 1.体位変換 ①枕の与え方・外し方 ②ベッド上での水平移動 ③仰臥位⇒側臥位⇒仰臥位 ④安楽物品の活用	演習
5	2.移乗・移送 ①仰臥位⇒長座位⇒端座位⇒立位⇒車椅子への移乗 3.ベッドからストレッチャーへ移乗⇒移送	
6	技術確認（車椅子移送・ベッドへの移乗・安楽枕の活用）	演習・技術確認
7		
8	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	清潔援助と衣生活				開講期間	6月～9月	
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ③				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①					医学書院	
	基礎・臨床看護技術 第3版					医学書院	
授業の狙い	身体清潔や衣服についての生理的・精神的・社会的意味を理解し患者に対して安全・安楽に援助する方法を学習する。						
到達目標	1.皮膚・粘膜の構造機能をもとに、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2.対象に応じた清潔援助の基礎知識、根拠を理解し実施できる。 3.病床での衣生活の基礎知識を理解し、寝衣交換を安全に実施できる。						
評価基準	筆記試験：60% 演習参加状況・記録物：40%						

回	講義内容	教授方法等
1	<清潔・衣生活の基本> 1.健康生活における清潔・衣生活の意義 2.清潔習慣の形成と阻害因子とアセスメント 3.皮膚症状とアセスメント 4.衣服の基本条件とアセスメント	講義
2	<清潔援助の方法> 基礎知識 1.入浴・シャワー浴 2.部分浴（足浴・手浴） 3.洗髪（ケリーバッド・洗髪車） 4.整容 5.口腔ケア・口腔ケアの実際・デモンストレーション・演習	講義・メディア教材視聴・演習
3	<寝衣交換の実際> 基礎知識 1. 臥床患者の場合 2.輸液中や上肢に障害がある患者の場合 -デモンストレーション・演習・技術確認 3.手浴・足浴の演習オリエンテーション 4.足浴の手順書作成	講義・演示・演習・技術確認
4	<部分洗浄と部分浴の実際1> 臥床患者の手浴 デモンストレーション・演習・技術確認・振り返り	演示・演習
5	<部分洗浄と部分浴の実際2> 臥床患者の足浴・デモンストレーション・演習・技術確認・振り返り	演示・演習・技術確認
6	全身清拭の講義・手順書作成・演習オリエンテーション・デモンストレーション グループワークで手順、根拠確認、演習	講義・演示・グループワーク・演習
7	<臥床患者の清拭の実際> 全身清拭手順書確認・デモンストレーション・演習・振り返り	演示・演習・技術確認
8		
9	<臥床患者の洗髪の実際> 1.ケリーバッドでの洗髪・手順書確認・デモンストレーション・演習・技術確認・振り返り	演示・演習・技術確認
10		
11	2.洗髪車での洗髪手順書確認・デモンストレーション・演習・技術確認・振り返り 3.清拭の技術確認オリエンテーション	演示・演習・技術確認
12		
13	<臥床患者の清拭> 演習・技術確認・振り返り・全体へのフィードバック 科目のまとめ	講義・演習・技術確認
14		
15	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	食事と排泄の援助技術				開講期間	10月～12月	
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ ③				出版社	医学書院	
	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①					医学書院	
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版					医学書院	
授業の狙い	1.食事・栄養の意義と基礎知識について理解し、対象の状態に応じた食事・栄養の援助ができる。 2.排泄の意義とメカニズム、アセスメントの方法を理解し、対象に応じた適切な排泄援助ができる。						
到達目標	1.食の基礎知識、栄養状態を理解し、食行動のアセスメントができる。 2.対象の状態に応じた適切な食事援助ができる。 3.排泄の基礎知識をもとに排泄のアセスメントができる。 4.対象の状態に応じた適切な排泄援助ができる。 5.患者の個性を取り入れた援助計画をグループメンバーと協力し作成することができる。						
評価基準	1～7回：食事の援助技術：50% 8～14回排泄の援助技術：50% = 筆記試験(レポート点含む)100点						

回	講義内容	教授方法等
1	1.消化器の基礎知識 2.食の基礎知識 3.健康な食生活の意義とその障害因子	講義
2	4.栄養状態、食行動のアセスメント 5.健康が障害されたときの食生活とその援助方法	講義
3	6.食事介助 /経管栄養法 /中心静脈栄養法	講義
4	食生活への援助の実際—デモンストレーション・演習	演習
5	1.食事援助の方法 2.食行動制限のある対象に応じた食事援助の実際	
6	食生活への援助の実際	演習
7	1.経管栄養法について（モデル人形を用いて胃管挿入・滴下調整） 2.栄養剤・補助食品について	
8	排泄の基礎知識 1.排泄の意義 2.排泄のメカニズムとアセスメント 3.排泄に影響を及ぼす因子と援助 4.排泄援助における看護者の役割と方法	講義
9	自然な排泄を促す援助： 1.自然な排泄 2.排泄行動の自立度に合わせた援助（設備・器具を含む） 3.トイレでの排泄援助 4.ベッドサイドでの排泄援助 5.床上での排泄援助	講義
10	自然な排泄が困難な場合の援助： 1.排便を促す援助の基礎知識 2.浣腸 3.摘便 4.ストーマケアについて 5.褥瘡について	講義
11	「便器・尿器の介助」の実際—デモンストレーション 排泄後の援助（おむつ使用の場合の陰部洗浄・おむつ交換）	演示・演習
12		
13	グリセリン浣腸の実際—デモンストレーション 排便を促す援助 浣腸実施～報告	演示・演習
14		
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	フィジカルアセスメント			開講期間	9月～12月		
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術 I ②			出版社	医学書院		
	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①				医学書院		
	根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版				医学書院		
目的	フィジカルアセスメントとは何かを正しく理解し、系統別のフィジカルイグザミネーションを学び、さらに得られた身体情報を、系統だてて活用する方法を学習する。						
到達目標	1.バイタルサインと観察の意義を理解することができる。 2.正しいバイタルサインの測定方法が習得できる。 3.フィジカルアセスメントとは何か、その意義について理解できる。 4.フィジカルイグザミネーションの手技方法と主な正常・異常所見について理解できる。						
評価基準	筆記試験：60% 演習参加状況・技術到達度・記録物等：40%						

回	講義内容	教授方法等
1	バイタルサインの観察とアセスメント 1) 観察の意義と視点 2) 変動因子と個体差 3) 体温測定 ①体温維持に関する基礎知識 ②体温測定方法 4) 呼吸測定 ①呼吸に関する基礎知識 ②呼吸測定方法	講義
2	5) 脈拍測定 ①脈拍に関する基礎知識 ②脈拍測定方法 6) 血圧測定 ①血圧に関する基礎知識 ②血圧測定方法 7) 意識状態 ①意識状態に関する基礎知識 ②観察方法	講義
3	4. バイタルサイン測定の実際	演習
4	1) 体温・脈拍・呼吸・血圧測定 2) 意識状態の観察	
5	呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 呼吸器系の基礎知識 3) 呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
6	循環器系のフィジカルアセスメント 1) 循環器系のフィジカルアセスメントの目的 2) 循環器系の基礎知識 3) 循環器系のフィジカルアセスメントの実際	講義
7	呼吸器系・循環器系のフィジカルアセスメントの実際	演習
8		
9	5. 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメント 1) 乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識	講義
10	6. 筋・骨格系・神経系のフィジカルアセスメント 1) 筋・骨格系・神経系のフィジカルアセスメントの目的、基礎知識 7. 心理・社会状態のアセスメント	講義
11	乳房・腋窩・腹部のフィジカルアセスメントの実際 筋・骨格系・神経系のフィジカルアセスメントの実際	演示・演習
12		
13	8. 技術確認 「臥床患者のバイタルサイン測定・フィジカルアセスメント」	演習・技術確認
14	9. 科目のまとめ	
15	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	検査・処置の介助技術			開講期間	12月～2月		
領域	基礎看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	基礎看護技術Ⅱ ③			出版社	医学書院		
	基礎・臨床看護技術 第3版				医学書院		
	ケアに生かす検査値ガイド 第2版				学研		
授業の狙い	各診察・検査、処置の基礎知識と看護師の役割を理解し、看護の実際を学ぶ。						
到達目標	1.各検査の目的と方法・介助の実際について理解する。 2.生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。 3.ME機器について理解し、看護の実際を知る。						
評価基準	筆記試験：70% 演習参加状況・技術到達度・記録物：30%						

回	講義内容	教授方法等
1	科目のオリエンテーション 感染とは 感染防止技術の基礎知識：1.標準予防策の復習 2.ガウンテクニック 3.無菌操作、滅菌物・滅菌手袋の取り扱い 無菌操作の演習オリエンテーション	講義
2	感染防止技術の実際①ガウンテクニック ②滅菌手袋 ③滅菌包みの開き方 ④滅菌物の取り扱い デモンストレーション・演習・振り返り	演習・演習
3	感染防止技術の実際 導尿（一時的・持続的）の基礎知識、 一時的導尿の手順書作成・演習オリエンテーション	講義
4	感染防止技術の実際 一時的導尿の手順書確認・デモンストレーション・演習・振り返り	演習・演習
5		
6	1.診察・検査の目的と看護師の役割 2.診察・検査・処置の介助技術 1)診察の介助 2)検査・処置の介助 ①X線撮影 ②コンピュータ断層撮影(CT)③磁気共鳴画像MRI ④内視鏡 ⑤超音波検査 ⑥肺機能検査 ⑦核医学検査	講義・メディア教材視聴
7	2.診察・検査・処置の介助技術 2)検査・処置の介助 ⑧穿刺(胸腔、腹腔、腰椎、骨髄) (症状・生体機能管理技術) 1.症状・生体機能管理技術の基礎知識 2.検体検査：1)血液検査 2)尿検査 3)便検査 4)喀痰検査 3.生体情報のモニタリング：1)心電図検査 2)心電図モニター 3)パルスオキシメーター 4)血管留置カテーテルモニター 5)心電図モニター装着の演習オリエンテーション	講義・メディア教材視聴
8	心電図モニター装着のデモンストレーション・演習・振り返り	演習・演習
9	静脈血採血・止血についての基礎知識 注射器の取り扱い・止血方法のデモンストレーション・演習 静脈血採血の手順書作成・演習オリエンテーション	講義・演習・演習
10	静脈血採血の手順書確認・デモンストレーション・演習・振り返り	講義・演習・演習 メディア教材視聴
11		
12	包帯法 1.援助の基礎知識 2.包帯法のデモンストレーション・演習・振り返り 3.科目のまとめ	講義・演習・演習
13	ME機器の種類及び使用目的と看護 1.低圧持続吸引機 2.人工呼吸器 3.AED 除細動機 4.人工心肺	講義
14		
15	終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護概論			開講期間	11月～12月		
領域	地域・在宅看護論	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤			出版社	医学書院		
	成人看護学 I 成人看護学総論				医学書院		
	参考：国民衛生の動向				厚生労働統計協会		
授業の狙い	地域での生活を理解し、維持していくために必要な基本的知識を学ぶ。						
到達目標	1.地域で生活する人々をとりまく社会情勢を理解できる。 2.個人、家族の価値観や文化を理解し、生活している人を捉えることができる。						
評価基準	終講試験						

回	講義内容	教授方法等
1	1.地域・在宅看護論を学ぶ背景 主要概念 ①人口構造の変化 ②家族構造 ③疾病構造の変化 ④医療提供体制の変化 ⑤地域包括支援システム ⑥自助・互助・共助・公助 ⑦地域連携クリニカルパス ⑧在宅看護の実践の場、対象者 等	講義
2	2.地域・在宅看護の役割 ①地域・在宅看護の変遷 ②対象の理解（暮らしと支援） ③自己決定支援・自立支援	講義
3	3.地域・在宅看護の役割 ①予防活動 ②実践の場における多職種連携・協働	講義
4	4.地域・在宅看護の役割 ①臨床判断 ②災害対策	講義
5	5.地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策 ①ライフステージと対応する主な法 ②医療保険制度 ③介護保険制度、被保険者、要介護認定の流れ	講義
6	6.地域・在宅看護がかかわる主な法・制度・施策 ①介護保険による給付とサービス ②地域支援事業（介護予防）	講義
7	7.その他の保険 社会保障制度 ①医療保険制度と種類、給付内容、医療費 ②年金保険 ③雇用保険 ④労働者 ⑤災害保険 ⑥生活保護 ⑦権利保障	講義
8	8.終講試験	試験

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	成人看護学概論			開講期間	6月～9月		
領域	成人看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 成人看護学総論			出版社	医学書院		
授業の狙い	成人期の発達段階の特徴、成人を取り巻く環境や健康を維持する仕組みを学習する。健康問題が複雑化・多様化していることを理解し、各健康レベルに応じた看護のあり方や医療システムについて学ぶ。						
到達目標	1.成人各期における対象の身体的・心理的・社会的特徴及び発達課題を理解できる。 2.成人期の対象の看護に必要な看護理論及び主要概念を理解できる。 3.対象の健康レベルに応じた、健康行動促進のための看護アプローチを理解できる。 4.成人における健康問題や課題に関心を示し、考察できる。						
評価基準	終講試験（80％） 課題提出（20％）						

回	講義内容	教授方法等
1	成人と生活（成人の特徴と発達課題）	講義
2	生活と健康①（生活習慣病）	講義
3	成人への看護アプローチの基本 －アンドラゴジー・チームアプローチ・マネジメント・倫理的判断－	講義
4	症状マネジメントにおける 看護技術療養の場を移行する人々への看護技術	講義
5		グループワーク（課題提出）
6	成人期に関連した最新ニュースを考える	グループワーク（課題提出）
7		発表会
8	新たな治療法，先端医療と看護	講義
9	健康生活の急激な破綻から回復を促す看護（急性期） －苦痛の軽減・合併症予防・回復支援・ボディイメージの変化に対する支援－	講義
10	障害がある人の生活とリハビリテーション（回復期） －日常生活再構築に向けた支援－	講義
11	慢性病との共存を支える看護（慢性期） －セルフケアに向けた支援・セルフマネジメント－	講義
12	ヘルスポモーションと看護	講義
13	人生の最期のときを支える看護（終末期） －苦痛の軽減・精神的支援－	講義
14	生活と健康②（健康をおびやかす要因と看護）	演習
15	学習のまとめ	終講試験

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	老年看護学概論				開講期間	9月～11月	
領域	専門分野	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学				出版社	医学書院	
授業の狙い	老年期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解するとともに、高齢者を支える保健医療福祉制度や高齢者を取り巻く社会情勢について学習することにより、老年看護の目的や役割を学ぶ。						
到達目標	1.老年看護学の概要を説明することができる。 2.高齢者が地域で生活することを支えるためのケア・システムについて総合的に理解できる。 3.老年期にある対象について身体的、心理・社会的特徴を説明することができる。						
評価基準	筆記試験 出席状況 課題提出物						
回	講義内容					教授方法等	
1	高齢者の理解 高齢者とは 高齢者人口の推移と特徴 多様な高齢者像 高齢者の生きてきた世代					講義	
2	ライフストーリーインタビュー（事例）からの老年観					グループワーク	
3	高齢者を取り巻く社会環境					講義	
4	高齢者の身体的特徴 老化のメカニズム ・老化と加齢 ・身体的機能の加齢性変化					講義	
5	高齢者の知的機能・認知機能・心理的特徴					講義	
6	高齢者のヘルスアセスメント：身体に加齢変化とアセスメント					講義	
7	高齢者のフィジカル・アセスメント① 循環器系・呼吸器系・消化器系・外皮系、感覚器					講義	
8	高齢者のフィジカル・アセスメント② 運動器系・消化吸収/内分泌・泌尿器系					講義	
9	【演習】高齢者疑似体験					演習・課題レポート	
10	高齢者の暮らしとQOL					講義	
11	高齢者を取り巻く保健医療福祉制度：我が国における保健医療福祉制度の変遷 介護保険制度 地域包括ケアシステム 後期高齢者医療制度					講義	
12	高齢者を支える多職種連携と看護活用の多様化					講義	
13	高齢者の権利擁護：老年看護における倫理的課題					講義・グループワーク・課題レポート	
14	老年看護のなりたち、老年看護の役割 まとめ					講義	
15	終講試験						

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	母性看護学概論				開講期間	10月～2月	
領域	母性看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論				出版社	医学書院	
	国民衛生の動向 2025/2026					厚生労働統計協会	
授業の狙い	母性とは何か、母性看護とは何かを考え、リプロダクティブヘルス/ライツの概念に基づいた看護の在り方を学んでいく。女性のライフサイクル各期における健康問題・課題に対する援助のあり方を学んでいく。						
到達目標	母性看護学実践するために必要な概念、基盤となる知識を理解できる。						
評価基準	筆記試験 課題レポート						

回	講義内容	教授方法等
1	母性とは	講義 グループワーク
2	母子関係と家族発達 セクシュアリティ リプロダクティブヘルス/ライツ ヘルスプロモーション	講義
3	母性看護のあり方 母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防	講義 グループワーク
4	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状①	講義
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 母性看護の提供システム	講義
6	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化	講義
7	女性のライフサイクルと家族	講義
8	母性の発達・成熟・継承	講義
9	母性看護に必要な看護技術	講義 グループワーク
10	女性のライフステージ各期における看護① 思春期・性成熟期の健康と看護	講義
11	女性のライフステージ各期における看護② 更年期・老年期の健康と看護	講義
12	リプロダクティブヘルスケア① 家族計画・性感染症・HIV・人工妊娠中絶・喫煙・性暴力・児童虐待・国際化社会	講義 グループワーク
13	リプロダクティブヘルスケア②	講義 グループワーク
14	リプロダクティブヘルスケア③	講義 発表
15	まとめ・終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	小児看護学概論				開講期間	10月～2月	
領域	小児看護学概論	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論				出版社	医学書院	
授業の狙い	小児看護の変遷と課題、現代の子どもを取り巻く環境と問題を通して、小児看護の目的と特徴、役割を理解する。						
到達目標	①小児看護の目的と特徴、役割について説明できる。 ②文化・社会の変化による子どもへの影響を理解し必要な関わりを説明できる。 ③子どもに関わる保険福祉行政と関連法規について説明できる。 ④健康診査、予防接種の必要性と方法が説明できる。						
評価基準	筆記試験90% 事前調べ学習10% (事前調べ学習の有無)						

回	講義内容	教授方法等
1	小児看護概論ガイダンス (講義の進め方・評価方法) 小児看護の特徴と理念 1)小児とは 2)小児看護の対象 3)小児看護の変遷と課題 4)小児看護における倫理と子どもの権利	講義 ワークシート
2	子どもと家族の諸統計	講義 ワークシート
3	現代の子どもの生活と変化	講義 ワークシート
4	保健福祉行政の実際：行政組織、関連法規<1> 1)児童福祉法 2)母子保健法 3)健康診査・予防接種	講義 ワークシート
5	保健福祉行政の実際：行政組織、関連法規<2> 1)児童虐待の防止に関する法律 2)子どもの貧困対策の推進に関する法律 3)臓器移植 4)学校保健安全法	講義 ワークシート
6	保健福祉行政の実際：行政組織、関連法規<3> 1)特別支援教育	講義 ワークシート グループワーク
7	小児看護のめざすところ 1)小児病棟・小児外来の特徴 2)小児の安全管理 3)小児看護の目的 4)小児看護の特徴と役割	講義 ワークシート
8	終講試験	

2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	精神看護学概論				開催時期	10月～2月	
領域	精神看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統別看護学講座 精神看護学の基礎①				出版社	医学書院	
	系統別看護学講座 精神看護学の展開②					医学書院	
	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉					医学書院	
授業の狙い	本科目では、精神看護の実践の基礎となる、心のしくみと働き、心の発達と精神の健康問題、精神の健康問題が人々の生活に及ぼす影響、また精神医療・看護の歴史の変遷、倫理と人権、精神保健福祉に関する法律と制度について学習し、精神看護の基本的な考え方、役割を学ぶ。授業方法は、講義を主として展開する。						
到達目標	1.心の健康の保持・増進について、また心の健康に影響を及ぼす因子について理解することができる。 2.心の構造について理解し、心の成長について理解することができる。 3.精神障がい者の処遇と医療、看護の歴史を学び現在の問題点と今後の展望について考えることができる。 4.精神保健・医療・福祉の法律や制度を理解する。 5.精神看護の対象及び対象に現れる精神症状の特徴を理解する。						
評価基準	課題提出物(20%)：指定した方法で、期日を守って提出されたレポート等を評価する。 筆記試験(80%)						
回	講義内容						授業方法等
1	精神看護に対するイメージ、対象に対するイメージ、心の健康とは何か						講義 個人ワーク グループワーク
2	心（精神）とは何か。精神と脳の関係						講義 個人ワーク グループワーク
3	健康という視点から心の健康とは何か、心が健康であるためには何が必要か						講義 個人ワーク グループワーク
4	心の健康に影響を及ぼす因子、心の健康を守るための精神保健						講義 個人ワーク グループワーク
5	心の実態について学ぶ。意識・無意識・前意識、自我、超自我、エス						講義 個人ワーク グループワーク
6	精神医療の成り立ち、精神医療が歩んできた暗黒の歴史						講義 個人ワーク グループワーク
7	日本の精神医療の成り立ちと暗黒の歴史、制度が変化						講義 個人ワーク グループワーク
8	精神医療を取り巻く法律、精神保健福祉法の目的						講義 個人ワーク グループワーク
9	入院形態、行動制限						講義 個人ワーク グループワーク
10	患者の人権を守るための仕組み						講義 個人ワーク グループワーク
11	精神看護の土台となるもの（患者-看護師関係～出会いから別れまで～）						講義 個人ワーク グループワーク
12	思考の障害						講義 個人ワーク グループワーク
13	感情の障害、知覚の障害、意欲の障害						講義 個人ワーク グループワーク
14	意識の障害、記憶の障害、知能の障害						講義 個人ワーク グループワーク
15	終講試験						

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	地域・在宅看護方法論 I			開講期間	9月～10月		
領域	地域・在宅看護論	対象学年	1	単位数	1	時間数	15
使用教科書	地域・在宅看護論[1] 地域・在宅看護の基盤			出版社	医学書院		
授業の狙い	生活共同体としての地域コミュニティを理解し看護の対象者として関心を持つことができる。						
到達目標	地域の特徴を理解し、地域での生活を支える支援を理解できる。						
評価基準	①終講試験 ②課題提出						

回	講義内容	教授方法等
1	1. 地域理解 ① 地域検索 墨田区・周辺地域について ・所在地・人口・年齢構成・面積・医療施設数・福祉施設・公共施設 ・暮らすことに注目した地区検索（買い物・駅・公園） ② バリアフリー・ユニバーサルデザインの概念の理解	講義
2	2. 地区踏査 ①計画 ②実施	講義 グループワーク
3	1. 地区踏査 ③まとめ	グループワーク
4	1. 地区踏査 ④発表	グループワーク
5	2. 地域包括ケアシステムと地域共生社会における多職種連携・多職種チームでの協働 ①病院から継続的な治療 ②居宅での療養 ③通所型施設 ④入所型施設 ⑤介護老人福祉施設	講義
6	3. 地域包括支援センターの役割 ①根拠法 ②設置主体 ③職種について ④業務について（介護予防マネジメント、総合相談支援、権利擁護、 包括的・継続的ケアマネジメント支援）	講義
7	4. 地域で暮らす人々を支えるフォーマル・インフォーマル支援における地域共生社会 ①高齢者福祉 ②児童福祉 ③障害者福祉のサービス ④介護保険サービス ⑤障害者総合支援法のサービス ⑥小児を対象とした福祉サービス	講義
8	5. 終講試験	

## 2025年度 東京墨田看護専門学校 シラバス

科目名	成人看護学方法論 I			開講期間	10月～12月		
領域	成人看護学	対象学年	1	単位数	1	時間数	30
使用教科書	系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護			出版社	医学書院		
授業の狙い	生命危機を脱し、社会への再適応に向けて準備を始める時期である回復期に焦点を当て、その人らしさやQOLを保ちながら生活するためのセルフケアの再獲得・生活の再構築に向けた看護の目的や看護師の役割を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.成人期にありセルフケアの再獲得・生活の再構築を必要とする対象の特徴と看護を理解できる。</li> <li>2.リハビリテーションに関連した主要な理論・概念を理解できる。</li> <li>3.リハビリテーションにおけるチームアプローチと看護の役割を理解できる。</li> <li>4.事例を通して具体的な看護援助を検討できる。</li> </ol>						
評価基準	筆記試験(80%) グループワーク発表(10%) 課題提出(10%)						

回	講義内容	教授方法等
1	急性期からの回復過程	講義
2	リハビリテーションとは①	講義
3	リハビリテーションとは②	講義
4	リハビリテーションの対象と法・制度①	講義
5	リハビリテーションの対象と法・制度②	講義
6	リハビリテーションに必要な概念・理論① (ICF・ノーマライゼーション・エンパワメント・アドボカシー・障害受容・QOL・アドヒアランス)	グループワーク
7	リハビリテーションに必要な概念・理論② (ICF・ノーマライゼーション・エンパワメント・アドボカシー・障害受容・QOL・アドヒアランス)	発表会
8	リハビリテーション看護の専門性と役割①	講義
9	リハビリテーション看護の専門性と役割②	講義
10	運動機能障害とリハビリテーション看護 (脊髄損傷・関節リウマチ・骨折)	講義
11	摂食嚥下・言語機能障害とリハビリテーション看護(脳血管障害)	講義 (課題提出)
12	循環機能障害とリハビリテーション看護 (心筋梗塞)	講義 (課題提出)
13	高次脳機能障害とリハビリテーション看護(脳血管障害)	講義
14	これからのリハビリテーション看護	講義
15	終講試験	

## 東京墨田看護専門学校 実習要項

実習名	基礎看護学実習 I			時期	1年次後期
目的	対象の入院生活の環境と看護活動の実際を知り、対象に必要な援助を導き出し実践する基礎的能力を養う。				
目標	1.病院、病棟の実際を知り、患者を取り巻く療養環境を知ることができる。 2.看護部理念・看護方針・看護体制を知ることができる。 3.看護におけるコミュニケーション技術を知ることができる。 4.対象とコミュニケーションができ、日常生活に関連した情報を収集できる。 5.対象の療養生活の状況をとらえ、日常生活上の問題に気づくことができる。 6.対象に応じた日常生活援助を計画し、安全・安楽に実施し、振り返ることができる。 7.対象に関わる保健医療福祉チームの役割について知ることができる。 8.看護の実践に必要な基本的態度を意識し行動することができる。				
対象学年	1	単位数	1	時間数	45
実習目標			学習内容		
1.病院・病棟の実際を知り、患者を取り巻く療養環境を知ることができる。			1)病院の概要(組織、機能、構造) 2)病棟の機能と構造、病棟スケジュール 3)療養環境の実際(照度計、騒音計、環境の測定)		
2.看護部理念・看護方針・看護体制を知ることができる。			1)看護部理念、看護方針、看護体制 2)病棟の看護体制、看護師の役割		
3.看護におけるコミュニケーション技術を知ることができる。			1)看護援助・コミュニケーションの実際の見学 2)コミュニケーションの方法と実際		
4.対象者とコミュニケーションができ、日常生活に関連した情報を収集できる。			1)対象の生活背景・日常生活 2)入院生活に対する受け止め方 3)対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響		
5.対象者の療養生活の状況をとらえ、日常生活上の問題に気づくことができる。			1)看護に必要な情報 ①収集対象の生活背景 ②入院生活に対する受け止め方 ③患者の日常生活 2)収集した情報の整理 3)日常生活上の問題点の抽出		
6.対象者に応じた日常生活の援助を計画し、安全・安楽に実施し、振り返りができる。			1)対象の状態・状況を踏まえた目標設定 2)個別性のある援助計画の立案 3)対象の安全・安楽を考慮した計画・実施 ①対象の反応を観察しながらの実施 ②セルフケア能力に応じた援助の実施 4)対象の状況に応じた計画の追加・修正 5)目標達成の評価及び援助実施の振り返り		
7.対象者に関わる保健医療福祉チームの役割について知ることができる。			1)対象者に関わる保健医療チーム、多職種連携		
8.看護の実践に必要な基本的態度を意識し行動することができる。			1)事故防止、安全確保、感染防止の行動 2)個人情報の管理 3)自己の役割と責任(時間・約束を守る・健康管理) 4)積極性と協調性 5)報告・連絡・相談 6)相手の気持ちや立場を考えた言動 7)自己の行動の振り返りと今後の課題		

構成		
病院実習		
回	時間	内容
1日目 (実践活動外時間)	2	直前オリエンテーション
2日目	8	①病院オリエンテーションの実施・病院内各部署見学・他職種業務等説明を受ける (オリエンテーション用紙) ②病棟オリエンテーションの実施 ③入院患者の療養環境測定の実施(環境測定記録用紙) ④看護師のシャドーイング(看護業務の実際を知る・患者とのコミュニケーションの様子を見学) ⑤受け持ち患者の選定
3日目	8	①受け持ち患者からの同意書 ②受け持ち患者の情報収集・意図的なコミュニケーションを実践する。 ③受け持ち患者理解、情報収集として、受け持ち患者の援助・処置を見学し、 受け持ち患者の日常 生活上の困りごとを見出す。
4~5日目	16	①受け持ち患者の情報収集(環境整備・バイタルサイン測定の実施) ②受け持ち患者に必要な日常生活援助の援助計画を立案し、実施・振り返りを行う。 (NO.7-1~3)
6日目	8	①受け持ち患者に必要な援助の援助計画を立案し、実施・振り返りを行う。(NO.7-1~3) ②病棟担当者とともに最終面談 ③最終カンファレンスの実施
7日目	3	①記録物の整理 ②学びの共有 ③必要な知識の定着の確認 ④記録物の提出